

東北支部 講評者

幼児部門・J I 部門・A 部門・C 部門・E 部門

プロフィール

宮城県加美町出身。第 8 回全東北ピアノコンクール第 1 位。第 39 回日本音楽コンクールピアノ部門第 2 位入賞。1972 年桐朋学園大学音楽学部卒業。井口愛子氏に師事。76 年文化庁在外研修員としてスイスに留学。A・B・ミケランジェリ氏に師事。80 年帰国。ソロリサイタルの他オーケストラとの協演、室内楽と幅広く活動する。東南アジア、中国、アメリカ、ポーランド、イタリアなど国外での演奏も行っている。94 年ベートーヴェン作曲ピアノ協奏曲全曲演奏。91～99 年モーツァルト作曲ピアノソナタ全曲、連弾作品全曲演奏を行っている。今年の 10 月にはオールベートーヴェンプロによるリサイタルを行った。平成 7 年度宮城県芸術選奨受賞。宮城学院女子大学名誉教授。

感想

コロナ禍でもピアノを弾き、頑張っている皆さんの姿を見て大変嬉しく思い音楽が出来る事への感謝の気持ちを新たにしました。動画から気がついた事をコメントさせて頂きましたが、音環境が異なってますので、評価に関しては次の点を目安としました。(1) 準備は十分されたか (2) よく歌われているか (3) 多少の幅はあってもタイトルのイメージが持てているか、等です。幼児・J I 部門は暗譜で楽しそうに弾かれてて微笑ましく感じました。A・C 部門では曲想は勿論ですが、各作曲家ならではの音楽・表現がされているか、楽語が消化されているか等です。達者に弾けているのですが何を表現したいのかな？とか作曲家はどこ国の人で、どんな気持ちで書いたか想像してるかな？と気になりました。E 部門は皆さん自分の感性を大切にした個性的な演奏でした。曲が大きくなるのでタッチ、表現の幅も広く要求されます。工夫して欲しいと思いました。有難うございました。

プロフィール

日本大学芸術学部音楽学科ピアノコース、同大学大学院芸術学研究科音楽芸術専攻博士前期課程を首席で修了。芸術学部長賞、湯川制賞受賞。同大学院博士後期課程を修了し、博士号（芸術学）を取得。読売新人演奏会、日本ピアノ調律師協会新人演奏会に出演。第 22 回 JPTA ピアノオーディション E 部門本選入賞、入賞者演奏会出演。ASIA 国際音楽コンクール第 1 位、第 17 回 JILA 音楽コンクールピアノ部門 2 位 (1 位なし) など受賞。A S I A 国際音楽コンクール入賞者演奏会（ウィーン）、ニース国際音楽アカデミー Étudiant Concert 等に出演。これまでに、ピアノを酒井かおり、柏木敢雄、星子知美、海老彰子、楊麗貞の各氏に師事。マスタークラス等で、パーヴェル・ギリロフ、ヘンリ・シーグフリードソン、ペーター・エフラーの各氏に師事。現在、仙台白百合女子大学講師。

感想

どの部門も、皆さんが真剣に取り組んでいる様子が伝わってきて感心いたしました。動画を提出するまでに、たくさん練習したのだらうと推察いたします。全体的に、しっかりとミスなく演奏したり、1 曲を通して集中して演奏することはとても良くできていたと感じました。今後は、曲の構造を理解して、その部分のキャラクターを感じ取り、それにふさわしい表現を考えられると良いと思いました。また、和声の変化や、それぞれの和音の響きを良く感じ取り、和音のバランスを考えたり、和音の違いによる響きの変化を表現できるようになると、さらに音楽的な演奏になっていくのではないかと思います。

この動画でのオーディションを通じて、参加された皆さんがさらに成長されることを願っております。

プロフィール

東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業。同大学大学院音楽学専攻修了。ピアノ・伴奏法・室内楽・和声・対位法を、故 田村宏、故 H・ビュイグ＝ロジェ、藤井一興、野田暉行、永富正之、浦田健次郎の諸氏に師事。1985 年 ポワチエ UMEP マスタークラスにて ペルルミュテール、F・クリダの諸氏に師事。1989 年 フランス音楽コンクール ピアノ部門 第 3 位入賞、フランス総領事賞受賞。ピアノ独奏の他、室内楽や伴奏の分野でも各地で活躍中。美術・文学・フィギュアスケートなどとのコラボレーションも得意とし、レニングラードバレエ団のソリスト（キリル・ミャスニコフ）の伴奏者としても知られている。作・編曲の作品も多く、パソコンゲーム音楽（『冒険浪漫』システムソフト社）も手がけるマルチピアニスト。指導者としては、2016 年 第 17 回 ショパン国際ピアノコンクール in ASIA 指導者賞を受賞。現在、山梨県立大学教授（学科長）、尚美学園大学非常勤講師、東京藝術大学同声会福島支部長。

感想

「動画でチャレンジ！」このコロナ禍でもピアノを通じて前進できる素晴らしい企画でした。参加して下さった皆さん、動画のご準備はさぞ大変だったと思います。撮影方法や機材、ピアノも普段弾き慣れているご自宅や先生宅と思われる風景、…、とても苦労されたと思います。ピアノの練習だけに集中できなかったかもしれませんが、様々な状況でも、ピアノの音に込めている想いや主張がしっかりと伝わりました。参加された演奏者全員がこの機会を経て、着実に上達されたと思います。皆さんの演奏は大変素晴らしく、楽しんで聴かせていただきました。

幼児・J I・A 部門のみなさんは、のびのびと楽しんで演奏されている様子が伝わりました。C・E 部門のみなさんは、適度な緊張の中ご自分の世界での集中した演奏を聴かせていただきました。「人前であがる」ということなく、実力を発揮できた方も多いと思います。この機会をばねに、ホールでお客様の前で演奏する日を、むしろ楽しみに今後のコロナ禍をお過ごしください。

次に皆様の演奏をまた聴かせていただける日を楽しみにしております。



あさの しげる
浅野 繁



しけ まさひろ
四家 昌博



むらき ようこ
村木 洋子